

読書活動を通じた、一人一人の豊かな表現力の育成 ～アニメーションの手法を活用して～

1 設定理由

特別支援学級の子どもたちに目を向けると、担任や友だちが質問した時に、自分の考えをすぐに言葉に表すことを苦手とする子が多い。友だちと上手にコミュニケーションがとれず、集団の中で円滑な人間関係の構築ができない場合もみられる。上手に自分を表現できないことは、子どもたちにとって精神的に大きな苦痛となっているのではないかとと思われる。

読書や読み聞かせは、子どもたちの心を耕し考え方を広げてくれる。文字が十分に読めない子にとっても、絵や語りにより、本の内容や登場人物の気持ちを考え本の世界に浸ることができる。そこで、読書活動においてアニメーションの手法を用いて、子どもたちが自分の考えや思いを伝える場を設定することで表現力を養いたいと考えた。読書へのアニメーションは、間違い探しや物語を組み立てる等、読書をゲームとして楽しみ、子どもたちの学習への意欲が増し、読書への関心を高めることができる。そして、この手法を通して、担任や友だちとのやりとりにより、子どもたちは自分の思いを伝える機会が増え、豊かな表現力につながる語彙や様々な表現方法を学んでいくであろうと考え、本主題を設定した。

2 研究仮説

本の世界で遊ぶアニメーションの手法を学習活動に取り入れていけば、学習への意欲が高まり、自分の思いを表現する力が育つであろう。

3 研究内容

(1) 文献研究

(2) 授業実践

①『生活単元学習「よーいどん!」のお話であそぼう』の実践

②『国語「おじいさんならできる」本で遊ぼう』他の実践

4 結論

○子どもたちは、アニメーションの手法を使うとクイズ・遊び感覚で学習に取り組めるため、間違えることをおそれずに発言でき、積極的に自分の考えを伝えるようになった。

○表現することが苦手だった子どもたちが、話し合い活動に意欲的に参加し、自分なりの方法で表現するようになった。

安房支部

南房総市立忽戸小学校

石崎 真由美

南房総市立健田小学校

吉野 操